



たんこぶのはれている中^{なか}はどうなっているの

たんこぶができるのは

たんこぶは、皮膚の下^{ひした}に血^ちのたまったものです。

たんこぶができるのは、たいてい頭^{あたま}で、頭^{あたま}のように固い骨^{かたほね}が、皮膚^ひのすぐ下^{した}にあるところ^{ところ}です。おしり^{おしり}のような、やわらかいところにはできません。

体^{からだ}じゅう、皮膚^ひの下^{した}には、細い血管^{ほそけっかん}がたくさん通^とっています。

体^{からだ}を強くぶつけたり、たたいたりすると、固い骨^{かたほね}と皮膚^ひのすぐ下^{した}にある血管^{けっかん}はやぶれ、血^ちがで^でます。その血^ちが、骨^{ほね}と皮膚^ひの間^{あいだ}にたま^たまったのがこぶ^{こぶ}です。

たんこぶの手^て当^あては

やぶれた血管^{けっかん}は、体^{からだ}のはたらきで自然^{しぜん}にふさがり、血^ちも吸収^{きゆうしゅう}されてしまいますので、こぶは、やがてなくなりませんが、こぶができたときには、ぬれたタオルなどで、すぐに冷^ひやしましょう。痛^{いた}みがやわらぎ、なおりも早^{はや}くなります。

また、こぶをいじったり、あたためたりすると、よけいに痛^{いた}くなりますので、注^{ちゅう}意^いしましょう。（監修・保志 宏）

